

はじめに

これからの学校教育を展望するとき、今、教員に求められていることは、子どもや保護者はもとより、広く国民や社会から尊敬と信頼を得られる存在となることである。そのためには、教員養成において、教員として最小限必要な資質能力を確実に育成することである。

「教職実践演習」は、このような資質能力を確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、教職課程の中に、新たな必修科目として設定されたものです。

講義は、スクーリングによって行われます。スクーリングに向けての事前学習について、またスクーリングにおける学習概要について、本学習プリントにより確認してください。

教員として「最小限必要な資質能力」並びに「教職実践演習」で身に付けるべき事項について審議会報告を挙げておきます。

教員として「最小限必要な資質能力」

教職科目の個々の科目の履修により修得した専門的知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力としている。

「教職実践演習」で身に付けるべき事項

- ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ② 社会性や対人関係能力に関する事項
- ③ 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
- ④ 教科・保育内容等に指導力に関する事項

「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（中央審議会答申）平成18年7月

したがって、「教職実践演習」では、教職課程の履修や教職課程以外の様々な活動を通じて学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものです。

学生はこの科目の履修を通じて、将来教員になる上で自己にとって何が課題であるかを

自覚し、必要に応じて不足している知識・技能を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑に開始できるようになることが期待されています。

1 科目のねらい

科目のねらいについては、「講義概要―履修の手引き」教職実践演習を参照してください。その要点は、教員として最小限必要な資質能力を身に付けることです。

本講義では以下の4つのことを学びます。

- ① 教育者としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項
- ② 社会性や対人関係能力に関する事項
- ③ 生徒理解や学級経営に関する事項
- ④ 教科内容の指導に関する事項

2 学習の仕方

「講義概要―履修の手引き」教職実践演習に示している3点のことが学習の基本となります。

- (1) 教育実習や事後指導を通して明らかになった課題の解決を行います。
学習指導（教材研究、指導法）、生徒指導（生徒理解、学級指導）についての課題をまとめ、その解決を図るように努めてください。
- (2) 教職課程で履修した科目の学習の成果を振り返り、不足する分野の知識・技能を補完します。
各科目で身に付けた知識や技能を振り返り、不足している分野の知識・技能を補う必要があります。スクーリングを通して再度自己の知識理解の度合いを自己評価し、補完すべき内容を確認し、補完するよう努めてください。
- (3) スクーリングにおいて、自己の課題の発表と他の学生との協議を通して課題解決を行うとともに、視野を広げ、協同性や対人関係能力にさらに磨きをかけます。
他者との協同作業を通してコミュニケーション能力をさらに高め、社会性や対人関係能力を磨くよう努めてください。
従って、事前の十分な心構えと課題の準備を行い、スクーリングに臨むことが大切です。

3 スクーリングに向けた準備

教育実習のまとめを行います。教育実習が終わると、学習プリント集「教育実習Ⅰ」で述べているように、教育実習日誌と教育実習レポートを大学に提出することになっています。そのレポートには、①学習指導について（苦勞したこと・工夫したこと、学んだことなど）、②生徒指導について（ホームルーム（SHR, LHR）について、部活動や掃除、生徒とのコミュニケーション等で苦勞したこと・工夫したこと、学んだことなど）、③教育実習前の「自分にとって、これから解決すべき課題と教育実習に向けての決意」についての振り返り（教師の日々の仕事を観察・経験して学んだことを踏まえて）についてレポートすることになっています。スクーリングでは、講義や受講者による協議により上記①～③について、学びを深めていくことになります。

従って、自己の教育実習を振り返ってこれらの点についてノートにまとめておいてください。

また、公開授業等で得た教育実習校における先生方からの指導・助言を活かし、学習指

導案を見直し、さらに発展させた研究授業を行いますので準備を進めておいてください。スクーリング実施前に提出となります。期日を守って提出してください。

4 スクーリングにおける学習活動

スクーリングにおける学習活動は講義概要に記した通りです。

- (1) 教員の職務・学校組織・運営・責任等について（講義、課題発表、質疑応答、協議）
教育実習を通して自己の教員としての使命感や責任感、教育的愛情はどのように高まったかについて考えをまとめておきます。まとめの講義後、代表者による課題の提言とそれを基にした議論を深めます。
- (2) 生徒理解と生徒指導、学級経営について（講義、課題発表、質疑応答、協議）
教育実習中に生徒との心の触れ合いが出来たか、またうまくできなかった場合はその原因を考えておいてください。まとめの講義後、代表者による課題の提言とそれを基にした議論を深めます。このコマでは、生徒指導や学級指導の在り方を学びます。
- (3) 教科指導について（講義、課題発表、質疑応答、協議）
学習指導案（実習日誌に添付）は的確に書けていたか、また実際に行った授業との関連はどうだったか、もしうまくいかなかった場合は何が原因だったかなどについて考えておいてください。まとめの講義後、代表者による課題の提言とそれを基にした議論を深めます。この講義では教材研究の在り方や指導法について学びます。
- (4) 学級活動（LHR）の指導について（課題発表、質疑応答、協議）
教育実習中に行った学級活動（LHR）の時間を実際に行ってみてうまくいったか、もしうまくいかなかった場合は何が原因だったかについて考え、まとめておいてください。代表者による課題の提言とそれを基にした議論を深めます。
- (5) 総合的な学習の時間等、その他の指導について（課題発表、質疑応答、協議）
教育実習中に行った総合的な学習の時間を、実際に行ってみてうまくいったか、もしうまくいかなかった場合は何が原因だったかについて考え、まとめておいてください。代表者による課題の提言とそれを基にした議論を深めます。

(1)～(5)については、状況において関連する内容をまとめて、講義や協議として取り扱う場合があります。

5 スクーリングにおける模擬授業と協議

スクーリングにおいて全員が模擬授業を実施します。模擬授業においては、教育実習校で身に付けた教材研究の方法や教科指導法を学び合う貴重な場となります。また、模擬授業後には模擬授業に関する協議を行います。積極的に参加しましょう。

(6) 研究授業について(模擬授業、質疑応答、討議)

見直した学習指導案を基に研究授業を行い、それを基にした議論を深め授業の在り方を学びます。

6 評価

提出物、スクーリングでの取り組み状況、自己評価、相互評価などにより総合的に行う。

7 スクーリングに当たっての事前の提出物、当日の持参物

以下の通り、あらかじめ準備しておき、提出物は期日までに、また当日持参物は忘れないようにしてください。

(1) 事前に提出するもの

見直した学習指導案等—教育実習での研究授業の学習指導案・資料をもとに、さらに見直し、発展させたものにしてください。(改めて、作成すること。)

- ・実習教科の学習指導案(改めて作成したもの)
- ・その授業に用いたプリント類
- ・教科書の該当部分のコピー

※事務部が指定した期日までに本学通信教育事務まで送付のこと。

(2) 当日持参するもの

- ① 実習記録のある教育実習日誌
- ② 教育実習レポート
- ③ 学習用プリント集(教職実践演習)
- ④ 「教育実習において明らかになった課題」についてまとめたノート
- ⑤ USB等、IT資料も使用可

8 その他

スクーリングでは、参加した学生に対して履修カルテに基づき面談を通じて補完指導を行う場合もある。